

るいそうと発作性の股関節痛から想起できた閉鎖孔ヘルニアの一例

病歴要約番号 0000022799-000 領域 消化器

患者の施設名 ○○大学医学部附属病院

患者ID	12345678	受持時患者年齢	58歳	性別	女性
受持期間	自 2017/01/11	受持期間	至 2017/02/24		
入院日	2017/01/11	退院日	2017/01/11		
転帰:	<input type="checkbox"/> 治癒	<input type="checkbox"/> 軽快	<input type="checkbox"/> 不変		
	<input checked="" type="checkbox"/> 転科:手術あり	<input type="checkbox"/> 転科:手術なし	<input type="checkbox"/> 転科:手術あり (外科紹介症例)		
	<input type="checkbox"/> 死亡:剖検あり	<input type="checkbox"/> 死亡:剖検なし	<input type="checkbox"/> 死亡:剖検あり (剖検症例)		
フォローアップ:	<input type="checkbox"/> 外来で	<input checked="" type="checkbox"/> 他医へ依頼	<input type="checkbox"/> 転院		

確定診断名

- #1(主病名) 閉鎖孔ヘルニア
#2(副病名1) 神経性やせ症
#3(副病名2)
#4(その他の副病名)

【主訴】股関節周囲の痛み

【既往歴】神経性やせ症 (20歳代より他院精神科通院中)

【社会生活歴】夫と2人暮らし。子供なし。

【嗜好歴】喫煙歴:なし, 飲酒歴:機会飲酒。

【アレルギー歴】なし。

【内服薬】なし。

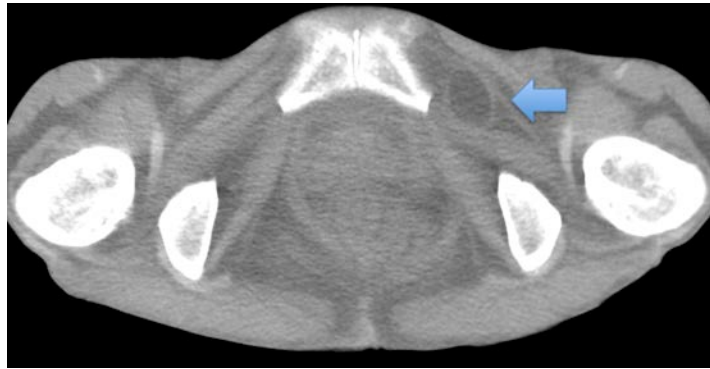
【月経歴】30歳代後半から無月経。

【家族歴】父親:脳出血。

【病歴】2年前から数か月に1回の頻度で股関節周囲の痛みを自覚していた。痛みは恥骨周辺から始まり, 10分程かけて左右どちらかの鼠径部にまで広がる。頻度としては右の方が多く, 発作時は激痛のため歩行不能とのことであった。痛みは排尿, 排便後に出現しやすく, 持続時間は数分~数時間である。これまでに複数の病院の内科や整形外科, 救急外来を受診しているが, 変形性股関節症や精神疾患と診断されてきた。受診の数か月前から痛みの頻度が増えたため当院を受診した。来院時は無症状である。

【主な入院時現症】意識は清明。身長 159 cm, 体重 32 kg, BMI 12.7。著明なるいそうを認める。体温 36.7°C。脈拍 64/分, 整。血圧 130/80 mmHg。眼瞼結膜に貧血なく, 眼球結膜に黄疸なし。唾液腺腫脹なし。頭頸部にその他の異常所見を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は陥凹, 軟で, 腸蠕動音は正常, 圧痛を認めない。四肢に吐きだこや浮腫はない。Straight Leg Raising test陰性。Patrick test陰性。股関節の可動域制限はない。

【主要な検査所見】尿所見; 定性, 沈渣に異常はない。血液所見; Hb 11.0 g/dL, 白血球 3,000/ μ L (Seg 74.5%, Eo 0.3%, BA 0.5%, Mo 3.5%, Ly 21.2%), 血小板 27.7万/ μ L。血液生化学所見; TP 5.7 g/dL, Alb 3.5 g/dL, 総ビリルビン 0.5 mg/dL, AST 50 IU/L, ALT 28 IU/L, LD 391 IU/L, ALP 170 IU/L, γ -GTP 14 IU/L, BUN 7.0 mg/dL, Cr 0.36 mg/dL, Na



添付画像 1 左閉鎖孔内に脱出した腸管を認める (矢印)

※注意※

J-OSLER から出力する病歴要約の PDF ファイルに画像は含まれません。

本例はサンプルとして画像を添付しております。